

政策	21 暮らしやすい都市の創出						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	有	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	定住の場や就業の場としての利便性が確保された計画的な土地利用や道路網整備の推進を図る。 本市を特徴づける資源を活かした魅力的な景観や街並みの形成を図る。 誰もが快適に暮らし続けることのできる良質な住環境を確保する。 日常生活の足となる身近な公共交通サービスの充実を図る。						
成果指標	道路の整備・保全に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値50.2%） 美しい景観形成に対する市民満足度...5年間で65.0%（現状値58.0%） 公共交通の充実に対する市民満足度...5年間で60.0%（現状値42.6%） 専用住宅の年間新築戸数...5年間で840戸（現状値804戸）（指標単位：戸）						
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定					60.00
		実績				45.80	
	成果指標2 [%]	予定					65.00
		実績				54.90	
	成果指標3 [%]	予定					60.00
		実績				45.70	
	成果指標4 []	予定	510.00	813.00	822.00	831.00	840.00
実績		778.00	739.00	772.00	706.00		
トータルコスト (千円)	予定	1,330,415	1,438,873	1,607,376	1,894,306		
	実績	1,514,414	1,329,832	1,838,222	1,850,306		
内部評価	貢献度	基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するための取組として、各単位施策は重要な要素であり、基本方針「心地よく暮らせるまちづくり」への貢献度は高い。					
	達成状況	成果指標「専用住宅の年間新築戸数」については未達成となったが、各単位施策は概ね目標通りのペースで進捗している。					
	課題	施策実施のための財源確保を図るとともに、施策内容の見直しや積極的な情報提供を行う必要がある。					
	取組方針	市民の施策の理解促進や利便性向上を図るため、積極的な施策の周知を行うとともに、必要に応じて施策の見直しを行う。					
外部評価	以前に比べると、まちが生きいきしてきているように感じており、各種取組みにより単位施策の達成度は概ね高い数値となったことについては一定の評価はできる。 一方で、28年度に行った市民アンケートでは、いずれも目標を達成できなかったことで、満足度が低かった原因をよく検証し、今後の各種事業に活かしてほしいものである。また、アンケート結果を踏まえ、総合計画後期基本計画策定の際は、目標値の設定をよく検討し、妥当な数値に見直すべきである。 専用住宅の年間新築戸数については、目標を達成できなかったが、あったかスマイルバンク制度による、空家に対するリフォーム補助制度や空家バンクの利用登録者数も中古物件の成約者数も堅調に伸びていることを踏まえて、今後は中古物件の成約者数も評価対象とするべきである。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	2102	景観形成の充実				55,376	100
	2101	都市基盤の充実				626,252	96
	2103	定住環境の整備推進				798,411	90
	2104	公共交通体系の充実				370,267	90

施策	21 暮らしやすい都市の創出		
区分	妥当性	妥当	暮らしやすい都市の創出のため、各単位施策下の事務事業の推進は不可欠であり、妥当である。
	コスト削減の余地	有	一部事業について、業務の実施方法等の見直しにより若干のコスト削減の余地がある。
	受益者負担	余地有	ふれあいバスの料金設定方法については、検討する余地があるが、その他の事業については適正な負担割合である。
	上位貢献度	有効	暮らしやすい都市の創出のため、各単位施策下の事務事業を推進し、市民が快適に暮らし続けることができる。
	類似事業の有無	有	下水道、公園等の整備も暮らしやすい都市の創出に必要である。
	成果向上の余地	有	施策内容の積極的なPRや市民に対する利便性の向上等、成果向上の余地がある。
内部評価	貢献度		
	達成状況		
	課題	事業の見直しと関係権利者の理解と協力を得ることが必要。 施策実施のための財源確保が必要。 施策を市民に理解してもらうためのPRが十分ではない。 公共交通の利便性向上が必要。	
	取組方針	景観に関する意識向上や木造住宅耐震化の重要性、補助制度等について、積極的に周知する。 市民ニーズを踏まえたふれあいバスの運行ルートを検討を行う。	